

環境保全基金活用事業 報告

北杜市地球温暖化対策・クリーンエネルギー
推進協議会（グリーン北杜）

自然環境保全活動「外来種見つけた～」

- オオキンケイギク クリーン大作戦

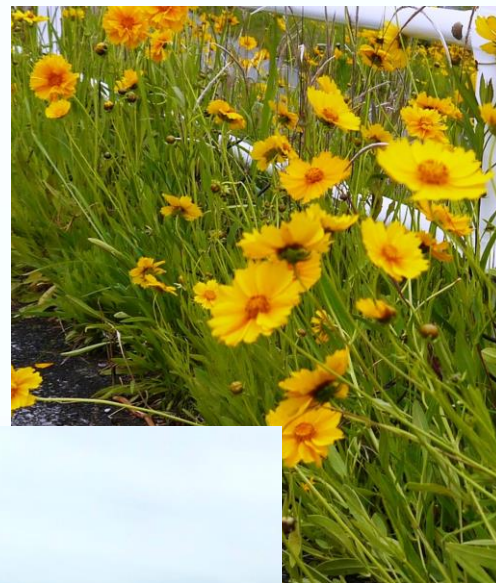
平成28年6月26日

大武川橋河川敷 他

上流部からの生育拡大を防ぐ

地球温暖化対策部会

北杜を代表する景色に外来種が増殖



河川敷に広がる黄色い帯



除去作業を実施

人手が何よりの戦術



瞬く間にゴミ袋が山積みになり

人海戦術で除去



瞬く間に軽トラ3台分に

3時間の短時間で軽トラック3台分の駆除量でした。



北杜市内に広がる、外来種の繁殖能力の大きさと、その旺盛の繁殖量に驚きの駆除作業となりました。

上流部から下流域への種子の広がりが、水辺環境景色を一変させる外来種の猛威をいかに防ぎ、環境を守ることの難しさを痛感いたしました。

追加報告 27年度外来種見つけた ～靴底きれいに～



27年度の事業において採取された靴底に付いていた種子の発芽実験で、総数148個が発芽し、30個体が不明な物で在来種ではない物と判断されました。



地域活性化“資源発掘”事業

～温泉熱源調査・温泉熱エネルギー
利用可能調査～

クリーンエネルギー推進部会

北杜市内に点在する温泉の特徴及び温泉熱エネルギーとして利用可能な温泉資源調査

調査日	平成28年9月9日 午前9時～
調査地点	高根の湯 大泉温泉センター スパティオ小淵沢
調査項目	温度・透明度・不純物・臭気 等
調査器機	実際の温泉を用いて、温泉による発電が可能かと、利用可能かを器機を用いて確認調査

グリーン北社会員と北杜市環境課職員が同行して 調査作業の内容を双方で確認



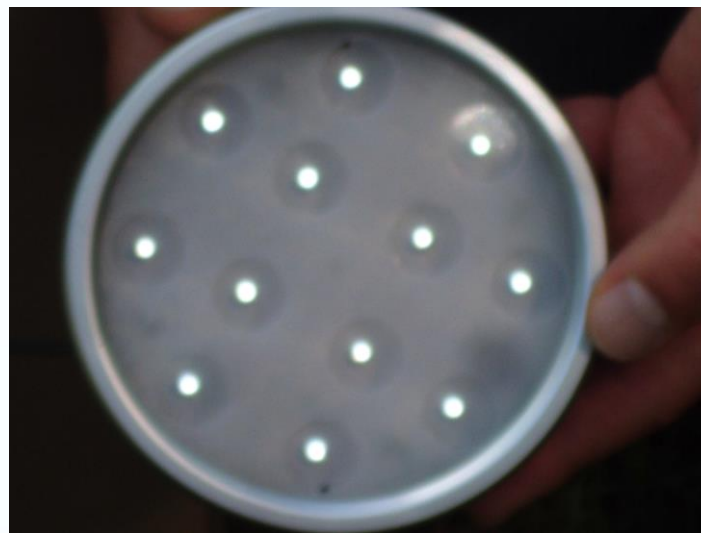
各施設に同行しての調査

調査風景



温度計による調査とバケツに取り、不純物・臭気や透明度
の確認調査を行い、その後、発電装置による発電実験
実証実験調査

各施設の温泉熱での発電状況



高根・大泉・小淵沢の順で調査を実施しました。

小淵沢では他の温泉源に比べ、野外であっても、十分な明るさを確認できました。



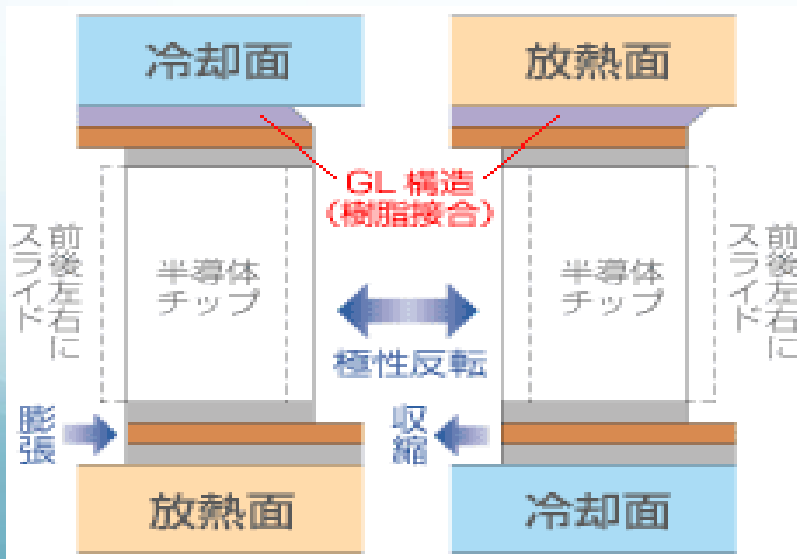
発電装置の紹介



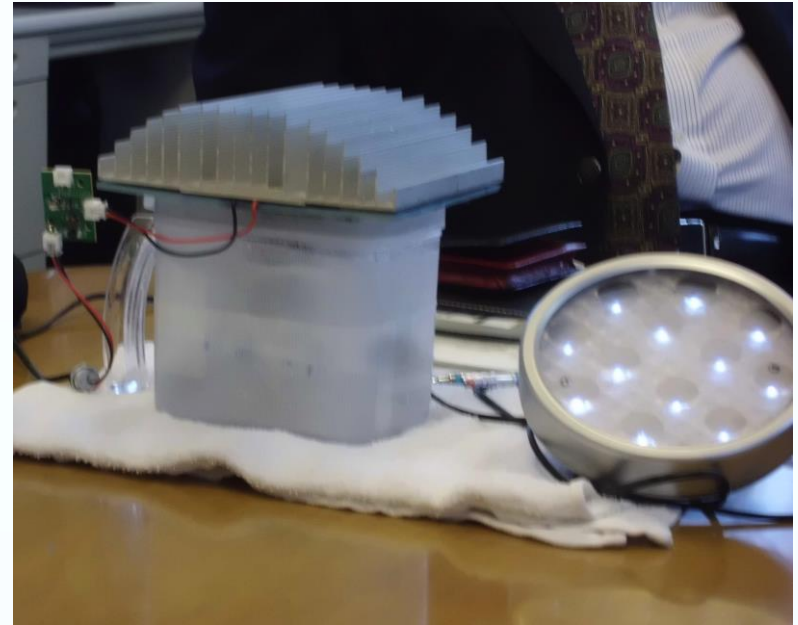
市販の発電機器（ホットライト）を使用して、北杜市内の温泉を実際に入れ発電状況（点灯）を確認する方法で行われました。

こちらの本体（2色に分かれたジャー）

に、温泉を入れ、その熱が放熱をする際の半導体の収縮による作用動時に発電を行う装置です。



調査後の勉強会



調査に使用した発電器(ホットライ)の仕組みと原理について、内藤邦夫氏により講演と説明をしていただきました。

勉強会をとおして、

北杜市内の温泉を利用して、その熱源利用により発電できることを確認し、北杜の新たな、エネルギー源になることを確証いたしました。

今後は、調査から実証に向けた情報収集に努め、実証施設へと移行できる調査を実施して行く段階になります。

改めて水資源の大切さと可能性に注目です。

“北杜の水”巡り 第二弾

「時代と共に移り変わる水資源の利用」

～茅ヶ岳の堰と水耕栽培営農施設～

北杜グリーンツーリズム推進部会

前回の水めぐり白州地区続き、今回は明野地区を取り上げ
釜無し水系における堰の歴史や地域産業を通じた水との
係わりについて学ぶツアーリズム

11月16日実施

今年度は、明野地区及び須玉地区（塩川水系）において、
茅ヶ岳地域の堰と
水耕栽培営農施設の2点に的を絞りました。

水路開拓と現在（ダム）の水利用
開拓農業から最新農業の比較体験

気候変動の影響を受けにくい農業とは

塩川ダムの見学



ダム内部での勉強会



3.11の時に陸上部より、ダム本体内部の揺れは
少なく地震に対して強いことを勉強

発電所見学

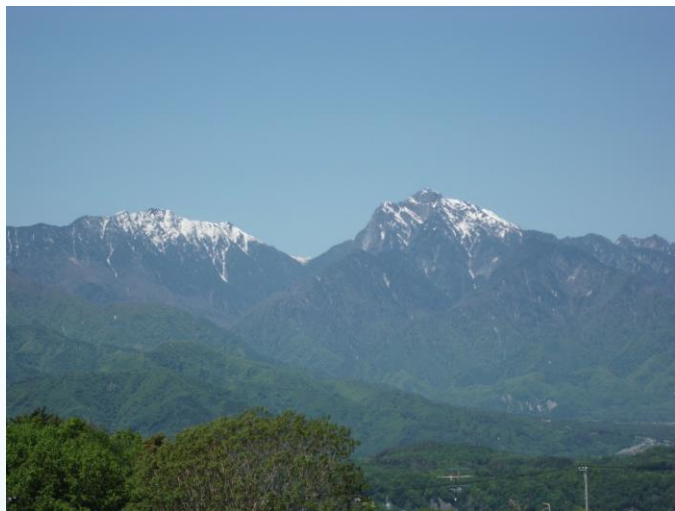


水利用のようす



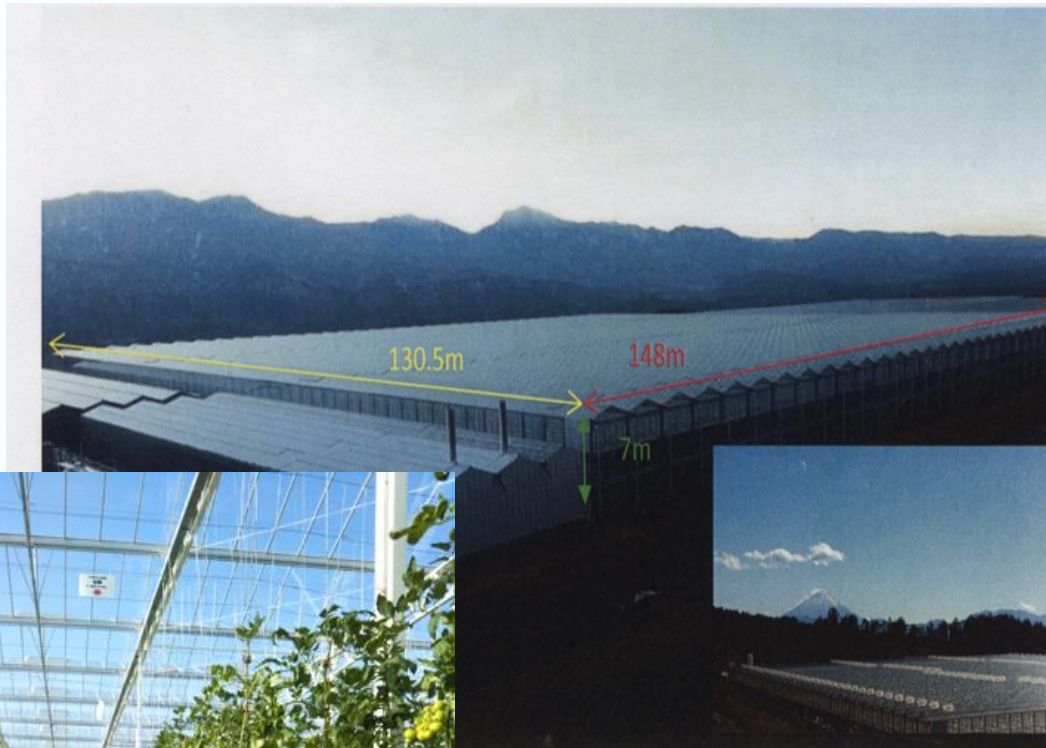
農業用水路を利用した発電

温暖化これらの景色が消えてしまうのか



新たな産業の見直しが北杜市で始まっている

自然環境の急変に強い農業経の挑戦



した施設と日本一の富士山、南アルプス)



植物工場の中は、全てが管理されており、管理クオリティーの高さゆえ、安心して、食べられるトマトが生産されていることを知りました。

こちらの工場の従業員は、家庭での農作業従事は厳禁です。

家庭菜園であっても、花粉や、病原菌を植物工場の中に持ち込むと瞬く間に、病気が発生していい、安全なトマトが生産できなくなり、植物工場の生産が止まってしまいます。

通りごとに、担当が決められており、どこかで、病気が発生すると、担当者が誰かがわかるようになっており、生産工程の責任の重要性が、従業員全員で守る必要があり、担当責任がある作業と、なっています。

私たちも、安全と安心が簡単に手に入る北杜の自然がいつまでも続くのではなく、自然環境を守る努力の時代に入りかけている

環境保全基金をつうじて、これらの大切な自然の大切さを伝えて行く努力が必要な時代に入ってしまったと実感したツアーでした。